

「就職に関する懇談会」ご参加のみなさまへ

多くのご父母の皆様が疑問や不安、また、心配に思っておられることを、就職支援センターで一覧表にまとめ、以下のとおりQ&A集としてご用意いたしました。ぜひお読みいただき、さらにご質問等ありましたら、遠慮なく就職支援センターにお問い合わせください。

■■連絡先■■

工学院大学 就職支援センター TEL 03-3340-0132 メールアドレス syusyoku@kogakuin.ac.jp

質問	回答
1.就職活動の環境	
(1) 就職活動の後ろ倒しは、学生にどのような影響がありますか？	採用活動を後ろ倒しをする企業もあれば、例年通りのスケジュールで進める企業もあるようで、学生の就職活動が長期化する懸念があります。また、時期によっては、研究活動と就職活動を並行して進めなければならず、時間管理が大変になります。そして、夏場の就職活動となり、一層の体調管理が必要となります。
(2) 求人状況は改善されているのでしょうか？	求人票をいただく企業数は増えていますが、依然として、優秀な人材がいなければ採用計画人数に達していても採用活動を打ち切ってしまう「厳選採用」が続いています。また、採用活動の後ろ倒しにより、採用にかけられる期間が短期化する企業の中には、採用計画人数に達していても採用活動を打ち切る所もあるかもしれません。
(3) 大企業、有名企業に子供を入れたいのですが。	B to Bのように、大企業であっても学生には知名度のない企業も多数あります。中堅・中小企業でも技術力の高い企業も多数あります。一部の有名企業だけでなく、そういった企業も調べて見ていただきたいものです。
(4) 大企業や、その子会社を希望していますが、可能ですか？	大企業やその子会社(冠企業)は、知名度が高く競争倍率が高いことが多いです。自己アピールをしっかりできるよう準備し、その会社に入りたい理由を明確に伝えられることが必要です。
(5) 最終面接まで進めれば、ほぼ内定なのですか？	最終面接であっても落ちることはよくあります。最終面接は単なる顔合わせではありません。
(6) 理系は男子学生ばかりで女子学生は就職に不利ですか？	不利ではありません。昨今では理系女性の活躍により業績を伸ばす企業も多く、その経済効果の高さから政府も理系女子学生を増やすための施策を講じている程です。2015年卒採用では女性限定の技術職セミナーを開催する企業も多く見られ、理系女子学生の注目度は益々上がっています。
(7) 出身大学による不利はありますか？	就職ナビの普及により、一社あたりの応募者数が増え、全ての応募書類に目を通すことができないため、まずは、大学名で選別する、という企業は現実にあります。しかし、それはごく一部の企業であり、大多数の企業は、自由応募が主流となる中、より多くの大学から採用する傾向にあります。本学学生は堂々と戦ってきてほしいと思います。
(8) 就職ナビとは何ですか？	リクナビ、マイナビ、日経ナビといった、企業の採用情報が掲載されているサイトです。学生はこれらのサイトから企業にWebエントリーができます。会社説明会の予約や、採用試験の可否連絡もこのナビ上で行われることも多々あります。また、就職ナビを使わず、自社のホームページ上でエントリーできる会社もあります。
(9) 就職ナビのメリットとデメリットは何ですか？	学生にとってのメリットは、多くの企業を一度にエントリーできること、効率よく企業の情報を収集できることです。一方デメリットは、インターネットに頼った就職活動となる(足で情報を得ようとしない)、多くの学生が簡単にWebエントリーできてしまうため一社あたりの応募者数が増加し、企業側はふるいにかけるため難しいエントリーシートを課したり、SPIの足きりラインを上げたりしていることです。
(10) エントリーシートとは何ですか？	エントリーシートとは、それぞれの企業が用意した独自の履歴書/自己紹介書です。書類選考に用いられるため、この一枚で次のセミナーや面接に進めるか否かが決まります。

(11)	SPIとは何ですか？	選考に使われる適性検査の1つです。SPIテストでは能力検査(言語分野・非言語分野)と性格適性の二部構成になっており、応募者の多い企業では一次選考として使われることもあります。面接段階でも可否の判断基準に使われることがあります。本学では3年次の7月から模試や対策講座を行っています。また、紙ベースではないWeb版のテストが急速に普及しつつあります。特にSPIのWeb版「テストセンター形式」が主流になっています。
(12)	SPIではどれくらいの点数がとればいいのですか？	能力適性検査は全体の6割は確実に取れるようにしてほしいものです。人気企業ではそれ以上の得点が必要な場合もあります。学生一人あたりの応募社数が多くなったことにより、足きりラインが近年上がっています。
(13)	学生一人あたり何社くらい応募しているのですか？	100社くらいWebエントリーをしている学生が多いようです。もっと多い学生もいます。全国平均は約60社です(リクナビ調べ)。実際に応募をした企業数は少ない学生で10社程度。多い学生では50社近くになります。
2.就職活動のスケジュールとやるべきこと		
(1)	就職活動のスケジュールを詳しく教えてください。	別紙をご参照ください。
(2)	インターンシップには参加したほうがいいですか？	就業体験としてのインターンシップは、単位認定になるものもならないものも、貴重な経験となるため、積極的な参加を勧めています。その一方で、学部3年生・修士1年生を対象として、就業体験とは捉えづらい短期間のインターンシップがすでに多くの企業で実施されています。それは、後ろ倒しの影響で各社の「会社説明会」は3月1日より開催可能となりますが、それ以前に学生との接点を持ちたい企業が、「ワンデイインターンシップ」などの名称で開催する、事実上の会社説明会です。就業体験にはなりません。就職活動の事実上のスタートであり、興味ある企業であれば積極的に参加をしていただきたいと思います。インターンシップ情報は、就職支援センターに届いた分は掲示にて公開しています。
(3)	履歴書はどこで販売しているものを使うのですか？	大学名の入った履歴書は、新宿キャンパス・八王子キャンパスの生協で販売しています。応募書類の中に「履歴書」と記載があった場合には、この履歴書を使用します。
(4)	採用試験は8月から始まるのですか？	倫理憲章を遵守する企業の採用試験については、8月より面接試験が実施されることが多いです。採用試験のうち、書類選考・筆記試験は8月より前に実施してもよいことになっており、会社説明会終了後から順次実施されます。
(5)	今すぐにやっておくべきことは何ですか？	業界研究・企業研究を進めてエントリーする企業を選ぶこと。SPIの対策をしっかりとしておくこと。自己分析をして履歴書を完成させておくこと。いずれも就職支援センターでサポートしています。
(6)	エントリーする企業はいつまでに決めればよいですか？	3月1日から、就職情報サイトを通じて一斉にWebエントリーがスタートします。出遅れないためには、その時までには、興味のある業界・企業を決めていることが望ましいです。
(7)	OB訪問の仕方を教えてください。	就職支援センターから直接連絡が取れる卒業生は、就職支援センターが仲介をしてOB訪問ができるようにしています。卒業生がいても連絡先が不明で直接連絡がとれない場合は、学生自身が企業の人事採用ご担当者宛に電話連絡をして、卒業生を紹介してほしい旨お願いをします。OB名簿は企業別に集録しており、学生は閲覧が可能です。その他、「リクルータ制度」を導入している企業については、リクルータである本学卒業生の連絡先を直接学生に伝えることができるため、学生は個別に連絡を取って進めています。リクルータとは大学の先輩で、後輩の入社に尽力してくれる心強い存在です。
(8)	就職活動にはどのくらいのお金がかかりますか？	リクルートスーツ一式、カバン、靴などの購入の他、会社説明会や選考で会社を訪問する際の交通費も意外とがかかります。また、応募書類は「送った」「受け取っていない」といったトラブルを防ぐために、可能な限り「簡易書留」で送るよう学生には勧めており、その送料もがかかります。
(9)	就職活動中はアルバイトはやめさせたほうがいいですか？	就職活動が実際にスタートするとアルバイトをする時間を捻出するのは難しいかもしれません。また、就職活動の予定が急に入る事もあります。ただ、就職活動ではお金もかかりますので、アルバイトをすることで気分転換にもなり、シフトの調整ができるようであればこれまでよりペースダウンして、就職活動の合間にアルバイトをするというのも良いかもしれません。

(10)	大規模な合同企業説明会には参加させた方がいいですか？	就職情報社が主催する、東京ビックサイトや幕張メッセ、東京国際フォーラムなどでの大規模な合同企業説明会は、他大学の学生の様子を見ることで刺激を受けてやる気が出たり、企業の概要を知る良いチャンスではあります。しかし、大変混雑して待ち時間が長かったり、様々な学科/専攻の学生を対象とするためどのような活躍フィールドがあるのかを聞くことができなかつたりします。本学では、3月中旬から学内で合同企業説明会を開催予定で、約220社が参加します(4月以降も複数回実施)。ここに参加する企業は、本学の学生をぜひ採用したいという企業です。本学の学科/専攻を理解いただいた上でどのような職種で活躍できるかもお話しいただけます。企業リストは別紙をご参照ください。
(11)	授業と就職活動が重なってしまった時はどうしたらいいですか？	学業優先となりますので、授業に出席していただきます。会社説明会・採用試験は、一日のみということではなく別日程での参加が可能です。
(12)	教職を取っている場合、教育実習と就職活動が重なった時はどうしたらいいですか？	教育実習を優先していただきます。選考途中の企業には事情を説明し、教育実習終了後に続きの選考を受けられるよう学生本人からお願いをします。選考のチャンスが一回だけということではなく、教育実習終了後に対応いただけると思います。

3.企業の学生採用のチェックポイント

(1)	履歴書では何を見ているのですか？	丁寧に書いているか、汚れていないか、企業研究ができているかどうか、自分のことを客観的に見ることができ、わかりやすい文章で表現できているか。また、学生時代に頑張ってきたことが文章を読んで具体的にイメージできるか などを見ている。就職支援センターでは、履歴書やエントリーシートの添削も随時行っており、書類選考で通過できるようアドバイスをしています。
(2)	面接試験では何を見ているのですか？	コミュニケーション力の他、学生らしく元気ではつつつとしているか、企業研究ができているかどうか、やりたい仕事がイメージできているか、自己分析がしっかりとでき自分の強みを理解しているか。また、その強みが会社の中で生かせるか、自ら進んで仕事に取り組めるか、などを見ている。就職支援センターでは模擬面接も行っており、自信を持って面接試験に臨めるようサポートしています。
(3)	留年は就職活動に影響しますか？	「なぜ留年したのか」は必ず面接試験で聞かれます。「どうして留年してしまったのか、そしてそのことをどれほど後悔していて、そのため現在どれだけ懸命に勉強と向き合っているのか」を伝えれば大丈夫です。変に正当化せず、素直に反省していることを伝えれば、同じ過ちは繰り返さない学生だと思ってもらえます。事実、これまで1留、2留、それ以上の留年生も、無事内定を得ています。
(4)	大学での成績はどの程度影響しますか？	成績は、良いほうがいいですが、それが一番ではありません。ただ、学業への取り組み方がそのまま仕事に対する取り組み方としてイメージされ、選考の判断材料の一つとなるケースもあります。

4.工学院大学への求人状況と就職実績

(1)	毎年何社から求人票が届いているのですか？	毎年5,000社以上から求人票が届いています。また、その他の多くの企業は大学に求人票を送付せずWebサイトのみで求人情報を公開しているため、実際に応募できる企業はさらに多くあります。
(2)	大学に届く求人票はどうやって閲覧するのですか？	本学オリジナルの就職支援システムJOB Naviで公開しています。学生は学園ポータルサイトから直接入ることができるシステムで、自宅からでも求人票が閲覧可能となっています。
(3)	今年度の進路決定状況はどうですか？	昨年末時点での「進路決定率(進路決定者数/卒業予定者数)」は8割程度です。進路が決まってもまだ就職支援センターに進路決定報告をしていない学生が多数いるため、正確な進路決定率は算出できていません。また、2月の大学院進学希望者もいるため、大学院入試の結果発表後にさらに進路決定率はアップします。
(4)	本学の就職先はどんなところですか？	学科によって就職先の業界は変わります。機械系、化学系、電気系は、メーカーへの就職が多く、建築系はゼネコン、住宅産業への就職が多いです。情報系はIT系企業への就職が多くあります。
(5)	推薦での就職割合はどうなっていますか？	就職決定者のうち、自由応募7割、学校推薦応募が2割、教員推薦応募が1割です。理系でも自由応募が多くなっています。しかし、その流れの中でも、学科を指定して学校推薦応募枠をいただける企業も毎年一定数あり、内定にも結びついています。

(6)	都道府県別の求人情報と、就職人数を教えてください。	2013年度の実績は、本社所在地で集計した都道府県ごとの求人社数と、就職決定先企業の本社所在地で集計した就職人数を、「後援会のしおり」に記載しています。2014年度の実績については、2015年度の「後援会のしおり」に記載します。
5.工学院大学の就職支援体制について		
(1)	どのような就職支援をしてくれるのですか？	就職支援センターでは、個別相談、求人企業紹介、様々な就職支援行事の企画・開催、などを行っています。就職支援センタースタッフだけでなく、「内定を取った学部4年生・修士2年生で構成するジョブサポーター」、「若手OB・OGによるサポーター」、「臨床心理士」、「新卒応援ハローワークのジョブサポーター」が必要に応じてサポートしています。本日お配りした大学紹介パンフレットにも記載がありますので、ぜひご覧ください。また、学科ごとに「幹事」がいます。幹事とは、学生生活をサポートする役目を担う教員です。何かあればぜひ、ご相談ください。
(2)	就職活動塾や就職予備校といった所にも通わせたいほうがいいですか？	高額な費用がかかる外部の講座より、大学内での行事を十分に活用いただいたほうが、内定への近道となります。学内では年間200本を超える就職試験対策講座を実施しています。また、本学卒業生や企業の採用担当者をお招きして実施する業界研究講座(2014年度は13業界・37社実施)も、本学の学科/専攻に即した内容となっています。受講料は無料(模擬試験のみ有料)ですので、ぜひ参加を勧めてください。
(3)	学内での就職支援行事が授業と重なっているが、どうすればいいですか？	極力多くの学生に集まってもらえる曜日・時間帯を選択していますが、全学科の学生が参加できる時間帯というのがなく、参加できなかった学生には申し訳なく思っています。行事は毎回ビデオ撮影をしているので、参加できなかった行事については後日ビデオ聴講をしていただけます。
(4)	学内での就職支援行事は、どのような方法で告知されますか？	一年間の行事予定は、5月に実施する学部3年生・修士1年生を対象とした「就職活動キックオフガイダンス」で配布します。講座内容の詳細や、講座の追加開催決定等のお知らせは、学園ポータルサイトへの掲載、学籍番号から始まるメールアドレスへの送信、学内各所の掲示で、学生のみなさんにお知らせしています。
(5)	Uターン就職のサポートはしてくれるのですか？	全国各地の自治体より、Uターン就職のためのガイダンスや合同企業説明会、求人企業リストなどが随時送られてくるため、就職支援センターに設置しています。自由にお持ちいただき、活動の参考にしてください。また、Uターン就職の就職活動と都内での就職活動を両立させるための就職活動のスケジュール相談にも乗っています。
(6)	就職活動で行き詰まってしまったら、メンタル面でのサポートはしてくれますか？	就職支援センターには、「臨床心理士」の資格を持ったスタッフがキャリアカウンセラーとして週一回来ています。就職活動がうまくいかなかったり、就職活動に疲れてしまったら、面談にお越しください。
(7)	担当教授からの企業紹介はありますか？	教員と企業様のつながりにより、毎年求人票をいただく企業様もあります。しかし研究室からの指定枠ではなく、選考を経て合否が決まります。
(8)	大学は細かな就職指導をしてくれるのですか？	学部3年次・修士1年次の6月から、就職希望者のほぼ全員と面談をおこなっています。それ以降、随時就職活動の相談や履歴書添削などを個別におこないます。面談・添削の内容は、必ず専用の電子カルテに入力し、必要に応じてその内容を指導教員と共有し、学生一人一人に応じた指導をしています。
(9)	もし就職が決まらないまま卒業してしまったらどうなりますか？	そうならないよう、卒業まで全力で就職活動をサポートいたしますが、もし就職が決まらなかった場合には、卒業後も就職支援センターでサポートをしています。そうして卒業後に就職が決まったケースもあります。
6.その他		
(1)	内定が出る学生と出ない学生の違いは何ですか？	自分の考えや意見をうまく伝えられなかったり、やりたいことが明確になっていない場合、志望動機が曖昧で内定に結びつかないことがあります。グループで何かを成し遂げた経験のある学生や、何か1つのことに打ち込んできた学生は、自身の中にしっかりと軸があり、うまく就職活動を進めているようです。

(2)	内定がなかなか出ない場合の対応はどうすればいいですか？	一番焦っているのは学生本人です。まずは見守る姿勢が必要です。そして時々状況を聞いてあげてください。就職支援センターでは、スタッフやアドバイザーが学生の希望など状況に合わせてサポートをしています。もし就職支援センターを利用していないようなら、ぜひ利用を勧めてください。
(3)	コミュニケーションが苦手な学生にはどのようなサポートをしていますか？	就職活動を通してコミュニケーション力がついてくる学生も多くいます。学生は、多くの企業へ自ら出向いて説明を聞き、面接試験を受けていくうちに鍛えられていきます。それでもなかなか就職活動がうまくいかない学生に対しては、個別相談の他、外部講師による模擬面接講座実施など、実践的な就職活動支援も行っています。
(4)	これといった特徴のない子の履歴書・エントリーシートの書き方はどうすればいいですか？	就職支援センターのスタッフが、学生と一緒に自己分析をやってみると、学生自身のいろいろな長所が見えてきます。「特徴がないから履歴書が書けない」ということは、これまで一度もありません。何か特別なことをやっていないと履歴書が書けないわけではありませんので、まずは自己分析をしてみて「自分」を客観的に評価できるようになってほしいものです。
(6)	学部卒と大学院卒の就職状況に差はありますか？	内定率については、学部卒・大学院卒でそれほどの違いはありません。ただ、職種によっては大学院生が圧倒的に有利というものもあります(研究職等)。また、上場企業への就職率は、学部卒より大学院卒の方が高いと言えます。
(7)	一人暮らしをしている子供に対して、親が就職活動に協力できることは何でしょうか？	離れていると就職活動の様子がわからず不安かとは思いますが、焦らず、見守ってあげてください。日頃から電話やメールでコミュニケーションが取れていると、就職活動についての報告もあるかと思います。グチでも何でも聞いてあげてください。また、学部1年生、2年生の場合は、今後長期休暇で帰省した際、将来の進路について学生の意向などを確認しておいていただくと良いかと思います。
(8)	ブラック企業を見極めるポイントはありますか？	これまでに、内定取消があった企業や不当解雇があった企業など、全国の大学間のつながりの中で企業情報を共有し、「要注意企業」の位置づけとしています。それらは本学の就職支援システムJOB Naviで公開し、学生に対し注意を促しています。
(9)	小さなコネでもお願いした方がよいですか？	どうしても入社したい会社であれば、コネも利用したほうが良いと言えます。ただ採用試験は人物重視であり、よほど強力なコネでなければ「絶対的に有利」とはならないと思われます。
(10)	自分に合った企業の見つけ方はありますか？	まずはしっかりと自己分析をすることで、自分がどういう職場環境だと力が発揮できるのか、どういう仕事をしていきたいのか、など自分自身の軸を決める必要があります。その上で、会社説明会に足を運び、その会社の雰囲気が自分に合うのかどうか見極めてほしいと思います。
(11)	研究室別の就職状況を教えてください。	具体的に所属を希望する研究室があれば、就職支援センターにお問い合わせいただけましたら、その研究室のこれまでの実績(就職先等)をお伝えできます。
(12)	低学年次からやっておいたほうがよいことはありますか？	「今しかできないこと」がたくさんあります。勉強だけでなく、意識的に様々なことを経験をしていただきたいと思います。特に、部活動や委員会、サークルなど、集団で何かをするという経験は、とても貴重で重要にポイントになるかと思います。また、親も含め、色々な社会人と会話する機会などをもち、社会との接点を増やしていくこともよいと思います。
(13)	各学科から就職できる公務員の職種を教えてください。	技術系の職種には「機械系」「化学系」「電気系」「土木建築系」等の区分があります。採用試験では、教養試験以外に、専門試験が課せられます。「行政職」に比べると、倍率はかなり低いです。
(14)	就職活動までに取得しておいたほうがよい資格はありますか？	資格取得がそのまま採用試験に有利に働くわけではありませんが、資格を取りたいという向上心・チャレンジ精神や、資格取得に向けて努力する粘り強さ、は評価されます。希望する業種・職種によって取得しておくよい資格は異なりますが、どの学科/専攻でも、TOEICのスコアは500点以上(できれば600点以上)取っておくと有利に働くことがあります。
(15)	就職後の工学院大学生の企業におけるポジションはどのようなものでしょうか？	日経HRの調査「人事が選ぶ大学ランキング」において、「大学総合ランキング」で本学が全国第14位に選ばれました。企業内での本学卒業生の活躍は高く評価されています。